

# 平成30年度全道児童委員活動研究集会 分散会グループ協議概要

児童委員と主任児童委員別の分散会、児童委員と主任児童委員合同の分散会のどちらかを選択いただき協議、情報交換  
分散会協議・情報交換のテーマ（協議・情報交換いただくテーマは下記の5つのテーマからグループごとに選択）

○テーマ1 「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

※子育て中のお母さんの孤立を防ぐため、子育てサロンづくり、既存のサロンの運営協力、交流の場に参加しない母親との接点づくり、個別相談、親子が利用できる施設に関する情報提供などについての協議、情報交換

○テーマ2 「子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）のために」

※子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）と解決に向けた支援活動についての協議、情報交換

○テーマ3 「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

※地域の状況を知り、地域全体で児童を見守り育むため、子どもたちとの交流の実施、関係機関・団体との連携した取り組み内容や成果についての協議、情報交換

○テーマ4 「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

※いじめや不登校、非行など子どもの問題発見と、子ども（家庭）への支援の内容や民児協と関係機関等との協力・連携、学校との交流を深めるための取り組みについての課題や成果について協議、情報交換

○テーマ5 「グループで協議、情報交換したい事項」

※グループの皆さんでテーマを設定して協議、情報交換していただきます。

※この分散会グループ協議記録概要は、各分散会において提出いただいたグループ協議記録用紙の内容を直にまとめたものです。なお、重複する内容については一部省略しておりますのでご了承下さい。

公益財団法人  
北海道民生委員児童委員連盟

## 第1分散会（児童委員）グループ協議記録概要

司会者 米内山 陽 子 氏（江別市大麻東地区民児協児童委員）

助言者 家 村 昭 矩 氏（函館短期大学保育学科教授）

### 第1グループ

#### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・帯 広 市：学校との関わりが密である。地区の小中を主任児童委員と共に訪問し問題点を共有している。  
民生委・民間のボランティア団体・学校と連携した活動に参加。
- ・名 寄 市：主任児童委員が中心で、児童委員には情報はあまり共有できていない。  
安心パトロール（町会と連携）、登校見回り（毎日）。
- ・北広島市：民生委・主任児童委員を含めて、小1と交流している。
- ・旭 川 市：町おこしに関わる。サロンに参加、部会に全員参加（老人施設 etc）。
- ・岩見沢市：子育てひろばへの協力～学校行事への参加

※虐待の発見～登校のパトロール中、あざを発見して主任児童委員に繋ぎ、その後解決

### 第2グループ

#### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・旭 川 市：朝日地区、月1回（第4水曜日）9：30～12：00、0～3歳児、お母さんとふれあいの場を設けている。以前に支給された助成金（20万ほど）である程度のおもちゃ・絵本・布団などは用意出来たが、現在は民生委員の活動費や地域の協賛金で運営している。若いお母さんの助けになってとても喜ばれている（悩み相談）。活動は市の広報誌等でPR、年に3回程は保育士、保健師が参加、グループ名「プルメリア」10数年前から活動。
- ・夕 張 市：バス通学（小・中学校）バス停での見守り、福祉センターで月1回（民生委員関わり年6回）子供達とふれあい、読み聞かせなど。
- ・帯 広 市：問題のあるお子様の家庭がある時は、主任児童委員から連絡が来て見守りをする。
- ・網 走 市：虐待防止のポスターの張り替えを年1回、年2回ほど。学校の先生と民生委員参加の会議で学校の報告を聞く。
- ・函 館 市：2か月に1回の開催のコミュニティースクール（学校運営協議会）で地域全体で子どもを育てていこうと連携している。
- ・名 寄 市：安心・安全会議を開いて、子供たちを見守りしている。
- ・北広島市：地域の方達、連携して見守りしている。
- ・江 別 市：地域の方が主になって登下校の見守りを行っている。依頼があれば活動する。

### 第3グループ

#### ○児童委員と主任児童委員の違い

- ・苫小牧市：19 地区、下校時の見守り⇒町内会とタイアップ、機関紙“ぬくもり”年 3 回発行
- ・旭川市：子供サロン、子供が生まれた家庭に絵本を配っている。
- ・名寄市：子供に関してはない。
- ・函館市：下校時の見守り、広報誌 2 回/年、町内会を含め配布
- ・江別市：親子で集まり、ふれ合いサロン催し物を月 1 回、プールでの見守り

#### 第 4 グループ

##### ○テーマ 4 「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

- ・苫小牧市：中学生の列車飛び込みが有り、調査が始まったところで、その地区は人口が増えてきている地区でいじめも考えられる。
- ・岩見沢市：月一回地域で会議、座長は校長、三校連携会議をしている。中学校 2 校、小学校 1 校、高校、市の青少年、民生委員 8 名、スクールソーシャルワーカー等 20 名前後で行う。先生が主体ではあるが、問題の子の担当民生委員が自宅を確認する。横の連絡を取り合う。ここにくるまでには民生委員の信用は、なかなか得られず 5、6 年という時間が必要であった。
- ・北広島市：5 年位前からコミュニティースクールとあって、学校運営委員会に民生委員も参加、2 か月に一回、荒れている学校から防犯協会を通し巡回の依頼があり活躍している。
- ・江別市：特別支援学級が出来る事によって、子供達にとっても、地域にとっても理解し合えて良い成果となっている。
- ・旭川市：中学校の校庭にパトカーが入って、防犯のためとはいえ是非地域で子供達を見守れるようにしてみたいと思う。
- ・函館市：三か月に一度の会議で、平均して安定している。

#### 第 5 グループ

##### ○テーマ 3 「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・学校の中に評議委員会、重点的に子どもの活躍を。
- ・今回的に地域との関係を強化する、学校で立ち上げた、地域、PTA、民生委
- ・主任児童委員～学校と密接な情報で共有、おたよりなど。
- ・民生児童委員～タッグを組んで「子どもの見守り」で対応している。不登校の子どもの対応。
- ・学校～今年から地域との密接な関係を発信している。団体を立ち上げてこれからまだ明確にはなっていないが地域に入って「見守り」をしていく。
- ・学校とどうつながっているか～登下校の見守り
- ・中味をもっとよくして、子ども全体を見守っていく。
- ・岩見沢市：研修会など年 3 回、町内会で育成協との、校長毎、中学校にまた別で、独自で資料を見たり、(学校と地域全体で) 町営給食場ができた。
- ・江別市：見守り隊、登下校にて校長隔々に立っている。
- ・帯広市：花壇作り、豊作物試食会などで子どもさんと交流している。
- ・稚内市：運動会、行事参加、おまつり、みこしなどで手伝い、登下校で、学校行事、定例会にも学校長も参加。

- ・三 笠 市：少子化でスクールバスのため、見守り隊が必要なくなった。
- ・旭 川 市：オレンジリボンについて、虐待をさせない、団体でつけてきた。不登校についてなど情報を交換した。  
交差点などで見守り隊、交通事故、スキー学習のボランティア、学校との信頼関係ができています。給食の配膳など、見守り隊がやっている。始業式での交通安全指導。
- ・北広島市：4つに分かれている見守り隊～小学校の給食時間（短すぎる）のこと、センター見学など、授業参観など、校長先生との懇談など

◎保育所、幼稚園とのつながりは

- ・岩見沢市：3歳以下の「ひなたっこ」毎週月～木まで、12地区で4～6月、親子、3歳未満児30名位、春日地区一カギっ子対策、第2・4、10：30～12：00
- ・帯 広 市：公園の清掃について、主任児童委員は卒業式に参加、幼稚園との繋がりを強化
- ・稚 内 市：幼稚園など広げることにはしていない。子どもの数での連携している。
- ・北広島市：小さい子ども、幼稚園、保育園
- ・函 館 市：幼稚園・保育園…児童では小学校、中学校のつながりはあるが強化していない。

○テーマ2「子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）のために」

- ・通報について～不登校について話し合った。協議になった事あるか～市でも投げている事例、一度も学校に入った事がない事例があった。お家に入り込めない。
- ・地域で児相・民生・中学校の先生などで、兄弟がみな学校に通っていた。
- ・30年で民生委員をしていて不登校について話し合ったが、進展がなかった。
- ・すぐ地域の側での事例～残念な事例、30年で一番心に残っている。

## 第6グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

1. 実際にやっている事

- ・北広島市：2期目、担当地区に中学1校、小学1校ある。交通指導員としてボランティアとして、近くの交差点で声かけ、見守りをしている。15名位の児童が通る（10年目毎朝立っている）。地域の子供との繋がりである。学校PTA主催で花火大会があり見守りがてら参加。
- ・三 笠 市：1年目、33戸、担当地区に学校はない。事件もなし、仲良しG、子供5～6人、一人暮らしはいる。
- ・旭 川 市：赤ちゃんが産まれたら保健婦と資料・絵本（旭山動物園監修）を配布に困りごと等の状況を確認する。永山町で月7～8名出生あり、旭川全域で実施、道路・公園であっても声かけしやすい。
- ・江 別 市：担当地域全体がマンション2棟の1つの自治会、子供の行事があれば顔を出す（ラジオ体操、新年会等）。
- ・函 館 市：小学校の下校時の見守り、不審者の確認、地域と関り～自治会の役員なので企画にも関わる。
- ・岩見沢市：担当管内、学校との連携はない。ブロック研修として中学校訪問し状況を知る。地域には中学生まで55名おり、町内会行事には参加す

る。近くの公園で声がしたら見に行ったり状況把握につとめている。  
町内会との連携は、お互いの情報収集になっている。

2. 子供の声うるさいとか言う人がいるかどうか

- ・函館市：近所に2~3才の子が引っ越してきたが、お母さんがうるさいでしょとあやまってきた→子供の声きくといやされる。
- ・旭川市：公園に大きい子だと思うが、タバコをイスにこすりつけてあった→警察に連絡、時々巡回をしてくれるので改善されている。

3. 地域との関わり

- ・函館市：個人情報で都市部ではやりづらくなっている。老人に子供の電話を聞いたら、別居の子から聞かないでくれと連絡がきた。へんに訪問しない事、相手から連絡があったら行く。
- ・北広島市：今年、65歳、75歳、75歳以上1年以内転居の方の健康調査がきており、記入したら民児に渡すとなっていた。30戸位
- ・帯広市：3つの町内を担当しているので、知人を通じて独居の方の安全を確認している。
- ・旭川市：訪問をいやがる所は行かない。介護保険情報もまだ早いと拒む人も多い。町内とのスムーズな情報交換したい→役員や以外の人にも聞くとい。今訃報を知らせない家もあり、後で知る事も多い。
- ・江別市：独居いない。自治会と協力。

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・虐待しているようだと言われた場合どう対処するか  
一人で対応せず、会長とかに伝えて児相所に連絡するなり、緊急の時は警察へ、一人では立ち入れないので、会長は定例会で相談事を全員に伝えてくれる。

## 第7グループ

○テーマ2「子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）のために」

◎具体例

- ・親から子へのいじめ多い。  
学校・病院（9割）、警察からの情報を受ける。
- ・民生委員に直接情報入りづらい。職場の人から近所の子でアザのある子がいる→市役所に相談（母子家庭）訪問する。その後の様子役所は守秘義務ありと教えてくれない。
- ・異常な泣き声あり。
- ・離婚母子家庭、母精神的不安定があり働けず貧困、近くに祖父、高齢年金生活援助できず→生活保護
- ・変質者にかかられた情報→見守り、パトロール
- ・学校と民生委員共有されてなかった。  
夏・冬休みに校長・教頭との顔つなぎ訪問している。学校からアザの子情報来るようになった。「世帯票確認に来ました」と訪問して確認していくといいのでは。
- ・学校訪問は主任児童委員が行き、民生児童委員は行く事少ない。
- ・高齢化、行事（町内等）に子どもがいない。

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

- ・関係者の意識の問題、関係を密にして情報を得る、小さい事でも芽をつんでい

くことが大事。

## 第8グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ①自治力の衰退、子供の減少が共通項として語られた。
- ②児童の登下校時の「声かけ」は、取り組みの大小があるが、概ね取り組まれている。
- ③児童館活動に積極的に取り組まれている。(函館市)
- ④子育てサロン 0～4 歳児 (公民館活動) に組織として取り組んでいる。愛のパトロールしている。(旭川市)
- ⑤通学路の安全パトロールを行い、行政に要望書を提出している。
- ⑥保健師さんとの定期交流

## 第9グループ

### ○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

- ・町内でやっている事一出産お祝、絵本や 1,500 円など渡している。交通安全、見回り、ラジオ体操など。
- ・子供のスクールバスに同席して見回りしている (10 回くらい)。
- ・安全に対して 10 回見回り。
- ・係を 9 人ほどつりのり会議をして、警察、先生をまきこみ、一緒にやっている。
- ・ラジオ体操、子供交流会、除雪も手伝ってもらう。
- ・小二の子供を食事させてないのではないかと学校からの依頼あり、育児放棄。
- ・発達障害に対して
- ・老人虐待→子供が老人をバカにする、民生委員がおこって良くなった。
- ・不登校の人がいる、民生委員が担任と一緒に自宅訪問して合うと、発達障害があり学校に出て来れないのではないかと。全校の中で 6 人ほどの知的障害とみられるが親が認めないということがある。
- ・言葉がおそいから専門家の所に行き、トレーニングをしている。
- ・子供が生まれた時に絵本や祝い金 1,500 円を差し上げている。
- ・子供達で作った作物をつかったもので、カレーライスを作り交流している。

## 第10グループ

- ・不登校、学校との交流を深めるために子供達との繋がりを重視する為には何をすべきか  
朝の登校時 (小学生・中学生) のつきそい、特に低学年、元気に声を掛ける子と知らんふりの子、民生委員・児童委員の積極的な学校に対する声掛け。  
地域によっては、町内会での子供達の喜ぶような行事があり、冬にはもちつき、春には会館でのおたのしみ会、夏には地域の夏祭り、七夕で各家へ周り、おやつをもらっていたり、秋には子供みこしがあつたりとさまざま、ラジオ体操にも参加すべき。

## 第11グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・北 斗 市：8月5日夏祭りを行った、わたあめ・かき氷（用意）を子供会、町内会と子供会のそりが合わず、子供不参加、子供会に予算をつけたが町内会と子供会の融和が進んでいる。
- ・富良野市：花火大会、秋リサイクル、子供達が主催、ラジオ体操（はんこ押す）町内会も高学年になると部活で忙しく参加少ない。
- ・小 樽 市：民生委員が町内会の連携とれていない。富良野あたりでは民協と町内会連携を取っている。
- ・旭 川 市：356名、市民会13個（ブロック）、社協も同等、民協たずさわれる。
- ・江 別 市：葬儀会場がなかったため加入率も高かったし行事の参加が多かった。参加率高い、人口12万
- ・北 斗 市：町内会と子供会の融和が進んでいる。
- ・夏祭りを開催し、土産・綿あめ・かき氷等用意したが、町内会とそり合わず参加者不足。また、子供に予算はけたり、リサイクル（資源）を子供会にゆだねて資金作りをしているが、やはり参加者不足である。
- ・一方民協、町内会、社協との連携が太いところもあり。
- ・徐々に時間をかけ、子供会、町内会の連携を深めている。
- ・日々の身近な人との声かけをいたしたいと思う。

## 第12グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・子供会（おもに小学生）と老人の会と合同でクリスマス会を開催、去年で2年目、35～6名参加
- ・小学校と連携、不審者情報を聞いて登下校見守っている。保護者にはメールで入るが民生委員にも連絡等がほしい。
- ・子供が生まれたら、主任児童委員さんと一緒に絵本を渡しに回る。
- ・協力要請があれば、敬老会・子供盆踊りのお手伝いをする。
- ・民生委員は、お年寄りの見守り、子供さんの見守り、生活困窮者等の活動が主になっていたが、今後は子供さんを大切に育てていくことが大切と感じた。
- ・子供さんとの関わりが少ない。まず民生委員の顔を覚えてもらう、その為1年1回全校集会の前であいさつをし、下校時に見守りをしている。
- ・去年から入学式・卒業式・運動会に参加している。
- ・ふれあいサロン（75歳以上）と、未就学児の幼児教室と合同で開催し、交流を深めている。

## 13グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・帯 広 市：町内会で昔はキャンプをよくしていたが今は子供もいない。夏まつりを計画、3年経ち夏休み中に盆踊りをメインに、4年目になる今は子供

達の声が聞えなくなったものの、お祭りをすればけっこう人数が集まる。町内会で家族票（家族カード）があることでとても助かる（町内会長をしている事で）夏まつりもなくなり、今は有志でやっている。自己申告で町内会で1万円のお祝い金“大空っ子”子供達の居場所づくり、人参劇ハロウィンなど100人以上、個人情報の関係で情報が得られない。見守り対象の子どもがいれば、学校・役所・民協などでケース会議を行う。

- ・小樽市：子供食堂（子無料、大人300）月1回、学習支援など商大生がボランティアでしている。企業より食料品など寄付してくれる。
- ・江別市：青少年サークル、小4~6、キャンプファイヤー、子2才までゴミ袋を2年間、枚無料配布、地域包括でつながる会、年1回集まりがある。
- ・室蘭市：学習支援、子供食堂、大学生のボランティア、子供もちつき、クリスマス会、運動会
- ・富良野市：子供のいる家庭PTAに参加はもちろん、いなくても準会員として関わっている（40人ぐらいの学校）。
- ・北斗市：4月に住民基本台帳のコピーをもらえる、年1月は訪問する（年1回世帯調査有）。
- ・8050問題
- ・個人情報ネットワークで子供の情報が得られないことがある。お祝い金があげられない。

#### 第14グループ

- ・北斗市：子供会がない。実際委員の活動は高齢者の見守りである。学校との接点がない地区、学校訪問、小中学校で校長・教頭と意見交換、ネットワーク会議年4回、子供を安全に守る・地域と学校で、就学援助の証明を民生委員が意見書を教育委員会に提出→申請すると通る。札幌で学校に勤務された委員さん多い地区で半数近くあり。  
民生委員の訪問が多いとマイナス面あり、複数で訪問する方が良い。
- ・富良野市：安否確認、4~5時間、町内会役員と委員で回る。マップ作成、孤独死が数日後判明するとへこむ。毎日訪問出来ないので近所の方に頼んでおく。年寄りの引きこもり、会館でサロン第1日曜日、高齢者サロンと子育てサロン毎月年4回、お助けマン→誰かと連携、民生委員を続けているのかと質問。

#### 第15グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◎地域の状況を知り参加内容は

- ・学校訪問のチャンス～参観日（水）、校長室にて代表者の面談（江別市）  
主任がメインとなる、若夫婦（子6人）移住してきたがほっぽり放し（富良野市）

◎世帯情報



- ・一斉調査（高齢者含め）あり、年 1 回、不在時のハガキ投入（小樽市）、広報あり、世帯票（1 世帯毎）を基に調べる（函館市）、各世帯の情報の引継ぎ→無い、ある地域は個人情報（子供含め）を引き継ぐ所もある。

#### ◎小・中学への入学式等への参加

- ・地域差大きい、日常交流あり（函館市、岩見沢市、小樽市、帯広市）学校からの招待も民生に対し有る。
- ・学校と接点があると、事前に大事な情報をもらえることがある→活性化のためには名乗り、提案を要す。
- ・主任児童委員になって、幼児との遊び会（親子広場）あり・2 回/月（岩見沢市、小樽市）
- ・情報の入手～アパート・マンションは直接ヒアできない、相手に合わせて問う。
- ・情報の交換～学校からは詳細な情報
- ・関係機関とのつなぎ方法～直接顔を合わせて、つなぐと色々な情報をもらえる。
- ・主任児童委員との関わり方～子供の事に関しては、主任児童委員にも繋げておくべき→共有化
- ・ケアマネージャー、ケースワーカーとの情報交換をやっている地域もある。（岩見沢市）

#### ◎介入の仕方

- ・つなぎ役だけど、周りの情報は私達が一番持っているのでは。ここまでやっていて結果が悪くなったが、仕方ないなどの思いも湧く。
- ・子育て世代包括支援センターシステムあり。（室蘭市）

#### ◎家村教授総括コメント

- ・保護分離後、戻った時の見守りの大事さ、見守りが見張りにならない姿勢

## 第16グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

#### ◎地域の情報（取り組み）

- ・子供が少ないし接点がないので、情報の把握がむずかしい、わからない。

#### ◎そんな中

- ・仏壇店が寄付してくれたみこしで、老人クラブが主体となって子どもみこしを実施。
- ・子どもと老人クラブとの交流で、昔遊びを実施。
- ・子どもを守るパトロールを実施して、交通安全も兼ねて声かけ見守りをしている。
- ・町会の文化祭に子ども達を書いた絵・習字の作品を展示し、子どもの親も見にくるようになった。
- ・地域サロンを立ち上げたが、子ども達はいなかった。
- ・学校の行事に児童委員・主任児童委員として参加。
- ・市や学校から子どものことについて、主任と児童委員に情報が来る。
- ・資源ゴミの回収に子ども達も加わっていたが子どもが少なくなり廃止した。
- ・子供会も無くなった。
- ・市の保健師が家に訪問した際、見守りに必要な家庭について主任児童委員へ依頼がある。
- ・子どもの行事は町内会と一緒にやらないと成り立たない。

- ・常にアンテナを張ること、信頼関係が築けて、色々な対応が出来る。学校への訪問回数を主任とともに増やして、情報を得ることが必要。

### 第17グループ

#### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・旭川市：子の生れた家庭に絵本（うぶ声）贈呈する（児童委員と家庭とのキッカケにするため）。
- ・岩見沢市：町内会として生れた家庭に祝いを送る。
- ・江別市：自治会として出生時に祝い品を送る（正式ではないがメモによる通知）。
- ・士別市：いなかで地域情報を十分に把握できる。不登校児の受入高校が設置されている。
- ・富良野市：死亡情報は新聞で知るが、生れた情報の通知はなく活動しづらい。小学校との連携をしようとする気運になっている状況。
- ・岩見沢市：民児協の定例会を学校で開催し、終了後学校との打合せなどを実施し連携を保つ。※グループ単位で21グループ、学校に児童委員の配置図を渡して問題あった場合連絡

### 第19グループ

- ・名寄市：虐待があつて新聞に載ったけれど、近所にいてもなかなか家の中まで知ることができな。情報を知る手がかりは何か。
- ・旭川市：児童福祉部というチームでお手伝い、児童センターより子供食堂運営子供が産まれたら主任児童委員が地域手づくりの絵本を届ける。その後のケアを担当地区の民生委員が訪ねて声かけをしようと言話をすすめているところ。
- ・帯広市：個人情報があつて、話がきこえてきてもなかなか声をかけていいのか、ためらうことがある。
- ・北広島市：少し前に母子家庭の事件がいろいろあつたけど、事件になってからわかる事例もあつた。

※民生・児童委員ではあるけれど、子供に関わることよりも高齢者の関わりの方が多いかも知れない。

※民生委員・児童委員の会議を地域の小学校で年3回ほどする。学校の様子を聞くことできる。親子ひろばなどのお手伝いに参加している。

※いろいろな地域の方の話しをきけたことで自分たちの活動もまんざらでもないと思えたり、こんな事もあるのかと思えたり、話をすることって、とても良いことでした。ありがとうございました。

### 第21グループ

#### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

##### ◎各地区の活動・問題 (活動)

- ・各学校訪問、授業参観、先生との情報交換、入学式・卒業式の出席、朝・夕の声掛け、見守り、春の入学シーズン、地域のパトロール（通学路）、夏休み中の

夜間見回り、運動会・学芸会等の参観、各商店・家庭に SOS ステッカー、ママセミナー・発達支援センターにおいてお母さん活動中に子供の託児

(問題)

- ・不登校児童に対して、主任さんとの連携、不登校児童訪問、先生とお母さんのメールで情報交換（若干お母さんの思いと違っている）、個人情報保護法によりなかなか情報得る事むずかしい。教育関係者と定例会時に情報交換により情報得ている。

※お揃いのジャンパー・Tシャツ等でイベント、学校訪問等参加して民生委員と認識してもらう。

## 第22グループ

- ・東川町：社会福祉センター、幼児センターで子育て支援、保健師による子育て相談、ランチ作り、遠足など児童委員はそのたび交代でお手伝いをしている。
- ・美幌町：子育て中のフレッシュママセミナーや社会教育委員会での事業の協力、年20回以上子供の託児のお手伝いをを行っている（親の体力作り増強、離乳食作り、検診時の預り）。10月のポカポカ祭り、1月のもちつき、子供食堂の立ち上げなど。  
テーマ3：各小中学校の学校訪問、始業式・終業式・入学・卒業の声かけ運動、運動会、学芸会の参観、子供食堂の立ち上げ
- ・新十津川町：テーマ1：本町の取り組みは承知していないが、私の意見としては同じ子育て中のお母さん達が、情報交換したりできる様な場（サロン等）を提供する地域の取り組みが必要と思う。
- ・滝上町：テーマ3：児童見守りと称して昨日も7:20から1時間通学路に立ち子供とあいさつを交わして来た。  
フムフム教室というのがあり、夏休みの子供達の作品の発表を見て来た。  
小中高等学校の参観日の参加、高校が来年度3月でなくなり、卒業式の参加など出る。
- ・大樹町：ボランティアで町のお母さん方で「こども食堂」を始めた。
- ・羅臼町：テーマ1：民間サークル2件、町のセンター1件ある。  
こぐまちゃんサークル：転勤者の方が多く来る。ママのお友だち作りを応援しているサークル、民生委員のかかわりはないがボランティアとして参加させている。  
ぐりとぐらのえほんポケット：親と子の絵本の読みきかせ、月に1回行っている。  
町のセンター「ありんこ」：発達や成長に心配のあるお子さんとお母さんをサポートしている。
- ・七飯町：毎年学校訪問をしている。学童保育は8月、クリスマス会は町と協力して行っている（100人位）。

## 第23グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・美幌町：学校訪問、見守り、登校、始業終業→おじさんおばさん見守り、学芸会、運動会
- ・滝上町：登校見守り隊、民生委員昨年から歩いている小学生姿みず。
- ・上富良野町：農村地区登校の姿は見られない。
- ・別海町：運動会招待
- ・美幌町：あいさつをしない子もいる。大人との交流で大事非行がなくなる。
- ・上富良野町：雪が多い、排雪が間に合わず緑のお婆さんと民生委員とで安全確認、人離れしないで人を見極める目が養われている。
- ・美幌町：祭り、青少年の活動といっしょに活動し、子供を見守り。
- ・別海町：見守り隊、緑のお婆さんで見守りしている。民生委員は学校訪問している。

※各町村、青少年児童部会、町により子供が減ってはっきりわからない。各自治会の青少年の活動と共に活動している。老人会の支援は多い。

- ・滝上町：子供の数が少ない。
- ・美幌町・別海町・上富良野町：単身赴任先へ子供がなじめない。家族ぐるみが少ない
- ・美幌町・別海町：第一次産業自衛隊の町、自衛隊が半分
- ・滝上町：忙しい部活等、子供と大人が接する機会が少ない。年寄中心、子供が集まる場所がない。学童館のような場所がない。高校が廃校になる。
- ・美幌町：高校2校→1校
- ・滝上町：忙しい。非行はないのではないか。
- ・別海町：農業が活気ある。後継者がいる。住みやすく、移住が多い。
- ・美幌町：大農業だけ生き残る。
- ・上富良野町：ラベンダー、交通渋滞、麦かりと重なる

〈課題〉

- ・講演の話は都会かと思う。SNSは親子の問題かと思う～小学生、生の声で会話をしなくなった。深刻さがわからない。朝食を食べさせる活動が開始、どの程度いるのか。障がいの問題としてレッテルを貼っているように思う。反面親は障がいかと心配。

## 第2分散会（主任児童委員）グループ協議記録概要

司会者 横田 礼子 氏（旭川市旭星地区民児協主任児童委員）  
助言者 大場 信一 氏（北翔会総合施設長）

### 第1グループ

#### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・小樽市：10 数地区×2 人主児、中学・小学学校訪問を年 1 回、児童福祉部会、主・民 年 3 回活動、施設訪問した→地域の人の見守りがほしいと言われた、支援学校の様子を地域に知らせる。
- ・岩見沢市：12 地区×2 人主児、主任児童委員部会・児童福祉部会、三校連携会議一中学校区 中 1 小 2、学校の情報を交流している。
- ・苫小牧市：26 地区×2 人主児、年度初めに学校訪問、何度も通っていると信頼関係ができる。母子・父子部会（主児と民生委員）3年で1つ、小中学校の生徒指導の先生と交流→先生によって温度差がある。お祭りに参加して顔売る。
- ・室蘭市：12 地区×2 人主児、3 か月に 1 度主任児童委員部会、地区ごとに関わり方に温度差、自分の地区では見守りが盛ん。小学校の評議委員を兼ねている。読み聞かせ、元 PTA 役員、小学校は老人施設との交流が盛ん。主任児童委員～学校との関わりがなかった人にとっては困難がある。何をしたらいいかという疑問から新しい風が入った→良い刺激、見学や勉強会などを考えるようになった。  
子育て支援関連のパンフレットを年 1 回作る
- ・滝川市：6 地区×2 人主児、主任児童委員部会、学校訪問（年 1 回）、校長・教頭など、学校側からプリント 10 枚くらい資料を用意してくれることも。施設訪問、赤ちゃん訪問（第 2 子以降）保育士と主児 1 人（5 人女性限定）→おみやげ（上の子に）、アンパンマンのフェルト指人形、折り紙のコマ（主任児童委員が手作り）、情報を届けに冊子をもっていく。家に入るのので気になる家庭もある。情報は市から、月に 20 人位、断られる家庭も。ハガキでお知らせ→都合のいい日を知らせてもらう（主任児童委員の仕事）。
- ・北見市：14 地区×2 人主児、2 か月に 1 回主任児童委員部会、民生委員さんとも月 1 回、年 1 回学校訪問、行事に参加して顔売る。登校時の見守り、夕方も見守り、赤ちゃん訪問、市から届ける物を渡される。主任児童委員が 1 人で行く～地域と関わっていい。障害を持った人のグループホームがあつて、学校から見守りを頼まれることもある。
- ・苫小牧市：学校から依頼を受けて、メッセージを付けたカード、チラシを届けに行く。
- ・岩見沢市：「全家庭を訪問しています。」と言って、まだまだ地域で「主任児童委員会」が知られていない。
- ・北見市：主任児童委員の仕事が知られていない→活動していない。
- ・岩見沢市：岩見沢親子ひろば～月 2 回毎週、会場児童会館、10：30～12：00、幼稚園・保育園へ通っていない子どもと親が集まって遊ぶ。

## 第2グループ

### ○活動報告

- ・虐待に対して児童委員からの報告がない。
  - ・学校との連携は出来ている場合があるが学校側から連絡なし。
  - ・主任児童委員の立場が明確化されていない。
  - ・函館市には子ども育て方アドバイザーがいる。
  - ・学校や児童委員から情報・学校に行って情報収集。
  - ・自宅訪問時は児童委員と同行している（町会加入依頼）。
  - ・事例があった時は児童委員に報告し対応確認。
  - ・緊急性の事例はない。
  - ・地域のどこに子供達がいるか不明（個人情報ネック）。
  - ・学校行事には参加している。
  - ・学校側が隠す傾向が若干あると思う。
  - ・教員（教頭）以前主任児童委員が訪問されたが、現在活動の中で訪問していない。
  - ・ネグレクトの時は、学校だけで対応できないので教育委員会、地域は最終です。
  - ・問題が発生した時は、主任児童委員が1人で動けない。担当児童委員がいない時の対応が不明確である。
- ※地域の課題を一つ一つつぶして行動している様子がある。立場でやりやすさ、やりにくさがあると思う。求められている役割、主任の活動地域からの理解、積み重ねが重要。
- 学校側からも主任児童委員と児童委員の立場が解らない。

## 第3グループ

### ○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

- ・北見市：学校側の情報はなかなか聞かれない。新学期に学校訪問している。月2回の主任児童委員部会で情報交換している。今は見守りしていく事しかできないが学校側から情報ないので難しい。いじめ不登校は学校で処理している。主任児童委員という立場より、違った形で学校に関わっている方が見えてくる事が多い。
- ・岩見沢市：学校区と民生委員の方面が重複している。学校訪問の時、空き教室で定例会初めて持つ。方面によっては学校と密度は異なってくる。
- ・函館市：新学期1週間、下校時見守りスタート、4～5月に集団下校時に子ども達に紹介され一緒に帰る。学校行事に参加、学校訪問は続けている。評議員として知った情報は、許可いただいて民協で話すこともある。個人情報の件もあって心がけている。不審者が出た時は主任児童委員が連絡網で民生委員に知らせ、手作りマップにそって見守りした。
- ・室蘭市：前任者の引き継ぎが学校に伝わっていた。読み聞かせの際に主任児童委員として知ってもらうように心がけている。PTAをしていた事で学校と近くなれた。いじめで不登校は担任が変わって解決した事もあった。
- ・恵庭市：学校訪問それぞれの方面で行っている。学校によって情報や交流の差がある。主任児童委員には案内してもらえない為、率先して学校行事

に行っていない。学校訪問の際は資料等提供してくれている。主任児童委員研修会年1回、今年は中学校防災訓練に参加（民生委員も一緒）。

- ・美唄市：学校訪問の際、去年の主任児童委員の活動報告をプリントして持っていく。継続が大事 ※主任児童委員も体力があつてです、無理せずできることをやっていく事。市内の全ての小学校（5校）で情報交流を行っている。主任児童委員と民生委員と校長・教頭交えて、子ども達の様子を皆で話した。

#### ◎アイデア

- ・学校訪問の際、私達にも案内いただけますか？と自分達から話しかけてみる事もいいのではないか
- ・北見市は、防犯マップ作成して渡してくれる。
- ・函館市は、入学・卒業式に手作りのお祝いのことば届けている。案内が来るようになった。

### 第5グループ

#### ○テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

##### ◎問題

- ・子どもに関わることの専門ではないので、障害やいろいろな悩みをかかえている人の手助けができない。
- ・市役所など子育てに関わるPRが上手ではないのでは～親に伝わらず、認知できず、子育ての広場、行事に参加できないのでは。
- ・子育て支援センター、他などに参加できる人は良いがそこへ足を運ばずにいる親子がいる。
- ・どこかでサロンや広場をやっていても、やる側の私たち民生委員も情報発信が上手にできず、知らないで終わっている。

##### ◎解決方法

- ・北見市の例：出生してから子育ての見守りを行っている。
- ・主任であることを知らせて行く（学校長や保育園長と仲良くする）。
- ・出生してから、転入してからの名簿が手に入ればと思う。
- ・芦別市・岩見沢市の例：出生したら“ブックスタート”を行っている。
- ・研修での内容：子育てでの問題の実例などでどのようにケアしたかなどのお話を聞き現場におろして行けるのだが。
- ・子育て中の親と、関係機関へのパイプ役になる（保健師、児相など）。
- ・ラジオ体操、交通安全の見守りで子どもの状況も見える部分がある。
- ・今年12月末まで出生した家庭へ「大谷翔平」のサインボールのプレゼントの噂、明るい話題なので各地域で確認を。

### 第6グループ

#### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・主任児童委員の立場
- ・地域によって活動費等が違う。
- ・集まっている7つの地域の活動が全く違う。  
学校訪問のみしている。赤ちゃん訪問もしているところとしていない所がある。

岩見沢市～月 2 回赤ちゃんから小学校入学前まで児童館で親子ひろばを実施している。例会では主任児童委員と児童委員との格差がある気がする。

## 第7グループ

- テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」
- ・小学生（兄弟）による窃盗事件（飲食店）被害額2万強→学校に相談するも警察に相談して下さい→子供を守る姿勢がない。家庭環境も複雑→父親は金額の違いにより否認した。
  - ・ケース会議に呼ばれるもその後の結果は知らされない→結論が出るケース会議をしてほしい。
  - ・学校行事にはなるべく参加して交流を深める。
  - ・校長先生は数年で変わる。
  - ・世帯表を活用しているという話を聞いたが→基本はもたない（その地域による）。
  - ・学校に聞き取りの対応は～中学校ははっきり言ってくれる、不登校の学生→給食だけ食べに来る→自分からアポとって聞く時間を作っている。
  - ・主任児童委員という認知度が低い現状だ。
  - ・見守るだけで良い、強要はしない→見守る事が大事
  - ・相談事例がある場合～1人で抱えないで地区の会長に報告・相談していくべき。
  - ・食事は作らないでお金を置いてすますケースが多い→ネグレクトにならないのがおかしい。
  - ・スマホの依存が問題だ。

## 第8グループ

- テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」
- ・“不登校”の事例を基に関係機関との連携を密にし、信頼関係を築く、こちらから「あれやる！これやる！」とは言わず学校やCWや児相の方達に名前を覚えてもらい「何かお手伝いできることありますか」と声掛けをする。
  - ・北見市：赤ちゃんがいる家庭とのつながり1人目もしくは2人目のお子様が産まれたお家に絵本を持ってお訪ねする都市がある。あらかじめ電話で訪問の旨を連絡しておく。名刺を作っている（自分の住所と電話番号が入っている）。
  - ・旭川市：あるケース会議に出たが、初めて聞く話ばかりで何のことかさっぱりわからないことばかり、話し合ったあとの結果報告もない。見守りを頼まれても顔もわからない。別の会議に出た際にでもこちらから積極的に聞いてみる。子ども食堂の取り組み、参加しているが主任児童委員としてではない。

## 第9グループ

- テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」
- ・旭川市：3～4か月児がいる家庭への訪問（担当の民生委員さんと調整して訪問）居留守の家もある。月1回子育てサロンで交流をしてお母さん達を引き合わせたりする。



- ・北見市：「こんにちは赤ちゃん訪問」がある。地域活動としての実感につながる。子育て中お母さん、今は実家に戻ると長期滞在することが多くなってきていると感じる。3～5か月の例もあり、親世代が祖母・祖父世代への依存度が高くなってきている。

○テーマ2「子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）のために

- ・子どもサロン（実は子ども食堂兼ねている）
- ・ケース会議は担当の民生委員さんと一緒に出る。各機関と民生委員などの横の連携が大切、各々に情報を持っていても。苫小牧市の教訓に学ぶ。

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・釧路市：市から委託でコミュニティースクール（共栄小学校）として地域の人達（校長先生・ケースワーカー・民生委員・児童館）と夜等に集まって、各々の活動内容を知らせ合う。

- ・児童館の手伝い

○テーマ2と3

- ・子どもの問題を報告・通報しても結果がフィードバックされないのでもうどうなのかわからないままである。主任児童委員がヒマなほうが子ども達にとっては良いのではないか。

○テーマ3と4

- ・学校とは頻回に連絡をとることで情報交換をしやすい状況を作っていく。今のお母さん達は子供の動画を録るのに忙しく、行事の手伝いをしない（できない）→お母さん達とジェネレーションギャップを感じる。

- ・担当地区の学校行事・地域行事は参加することが多く、忙しくなっている。

※・行政と連携していくことで互いの情報を有効的に活用できる。

- ・行政からフィードバックがないのは、個人情報問題の他に行政もやること（仕事量・分野が広がったり）多くて、余裕がないのではないか。フィードバックしてもらえるとモチベーションが上がるのに。

- ・親世代とのジェネレーションギャップがいろいろな点で感じられる。

## 第10グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

◎地域の状況を知る

①学校訪問

- ・釧路市阿寒地区では世代が繋がっているコミュニティが多い。幼・小・中・高の学校間の連携が良好なので調整、準備を進めることができる。
- ・石狩市では学校訪問に出かけて見守る姿勢を見せる。

②地域の子どもの様子を知る

- ・旭川市はブックスタートに関わることによって生後2か月ほどの赤ちゃんのときから成長の様子を見守る。心配な面は保健師に引き継ぐ。

## 第11グループ

- ・児童委員と主任児童委員との違い、役割・責任について
- ・学校との関係について
- ・赤ちゃん事業について

- ・高齢者と子供の関わり
- ・障害者と一般の人との関わり
- ・市や地区によって活動はさまざまなこと、主任児童委員としてできることは何か、それぞれ悩まれていることがある。児童を見守ることが大事。

## 第12グループ

- ・旭川市：最初にケース会議に呼ばれる主任児童委員の件を議題にあげた。
- ・苫小牧市：ケース会議に呼ばれても何を話して良いかわからなかった。母子家庭・生活保護家庭の件、学校・行政・スクールカウンセラー等、児相、その中で主任児童委員のできることは下校指導くらいだった。話を聞いてあげることくらいしかできない。下校指導しているうちに顔馴染みになって話しかけることができるようになった。問題ある家庭だったが大きな問題もなく、ケース会議に出席する方々は皆職業として会議に出席するが主任児童委員だけはボランティアなので、軽く少し引いた立場で発言した方が良い。
- ・名寄市：評議員を頼まれたがどうしたらよいか迷っているが→学校の中の事を教えてくれるので参加した方が良い。
- ・北見市：子育て支援（第2子から、予防接種などの説明）も主任児童委員が実施している。農村部は新生児が少ないが、都市部の主任児童委員は1人で数十件持っている人もいる。これに対しグループからは大変良い活動であると称賛されていた。
- ・旭川市：新生児が産まれたら配布グッズ（うぶ声の贈り物）は主任児童委員が担っている。過疎部なので新生児から大きくなるまでわかってしまうので、あまり深く関わらないように気をつけている。
- ・北斗市：世代間の分断が激しくなっている時代。ブックスタートはやっている。現場と役所の立場の乖離がある。
- ・旭川市：情報過多の時代にどの情報を選ぶかが大事、常識が変化している時代なのでこれが正解というものがない。
- ・函館市：子育て支援は保健師さんが行っている。
- ・子育てへの助言を受け入れてくれるお母さんだと子育てがうまく行くような気がする。
- ・孤立しているお母さんをどうやって支援するのが大事。
- ・テーマを決めないで話し始めたが（都市部と過疎部でかなり状況が違うため）、最初はテーマ3を話し合っていたが、途中からテーマ1に変化してきた。北見市の「こども支援プロジェクト」子ども食堂プラス学習支援、学校から不登校の児童を紹介された。
- ・貧困の連鎖を放っておかない取り組みが大事。
- ・コミュニティ組織（町会・PTA・学校）

## 第13グループ

- テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」
- ・帯広市：26地域に分かれ、小・中学校を中心に各地域が担当を決めてる。小・中各1校、4～5月に各1回、主任児童委員と委員長・副委員長で回っ

た後、特にとり上げて問題にしていない。家庭環境等割とオープンに開示してくれる。保護者の状況を知りたい、地域の話しを先生は聞きたがるがこちらも話しづらい。知らないうちにケース会議が開かれたりしている。

- ・ 苫小牧市：4小1中、校長・教頭により対応が全然変わる。1年を通して、不登校を教えてもらっても何ができるのか、学校で何かというより地域が騒いで事が分かるなど。
- ・ 北斗市：毎年6月小・中・高、秋に保育園・特別支援施設など、毎月市の担当職員と情報交流（主任児8名と市職員が毎月1回～口頭説明のみ）、不登校の情報、学校によってオープンなところと非公開とある。
- ・ 函館市：1～30にわかれ、23民児協、小4つと中学校2児童館、母親クラブ、小学校放課後子どもクラブ、小・中のコミュニティスクール運営委員（学校評議員が当たる）→学校が子どもたちのために何ができるか。主任児童委員2名と児童委員の3名で不登校家庭を訪問→定例会で報告、学校から詳細に家庭情報を得て、その後学校に報告、何かあれば直接学校に訪問している。
- ・ 旭川市：4～5月学校訪問、他学校行事、年1～2回ケース会議、資料は回収、地域のサポーターなど結局は見守りだけ。学校から身なりを気にして情報あり。子育てサロン、うぶ声の絵本の贈り物。主児2名・児委3～4名、3月おひなさま、ミニ縁日、母子が一緒、母がくつろげる。東旭川地区から助成あり、公民館もタイアップ、11か月のプログラム、季節に合ったもの、月1回開設、その他見守り活動等で活用、出席家庭の状況を市からもらい、主任児童委員・児童委員が情報共有→絵本のプレゼント2冊→1冊
- ・ 北見市：14地区、28名主任児童委員、担当地区、小学校児童数16名、入学・卒業・運動会等に参加、突然訪問すると驚かれる。赤ちゃん訪問、第2子は主任児童委員が訪問することになっている。全家庭訪問で問題がない家庭を保健師の手が回らないため主任児童委員が担当し、結果報告を市にする。児相研修、報告の内容を主任児童委員会会議で、奇数月1回で年6回

## 第14グループ

### ○テーマ2「子どもの問題の発見と虐待などへの対応（民児協や周辺機関との協力）のために

- ・ 特に虐待の発見や相談を受け、その対応についていろいろな意見が出されました。情報収集（学校訪問等相談で）関係機関との情報共有が特に大事、また一歩踏み込んで警察の力を借りることも、最悪の事態におちいらない為には必要なことと思う。子供の前での夫婦DVに関わった事例で、他地域に越した後に関わりを持つことはどうなのかとの問題提起もありました。
- ・ (DV) (虐待) のほぼはお金がからんでいる。「夫の収入がもう少しあれば」と夫のせいになっている母、子どもができたなら夫の収入があがるような制度になって欲しい。「おとうさんのおかげで暮らせるね。」みたいな社会になって欲しい。(北見市)

## 第15グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

- ・学校とのかかわり～年1回学校訪問して情報交換している。行事などに参加、月2回学校、子ども放課後居場所づくり～主任児童委員中心

【事例1】いじめ・不登校の問題はないが、夫婦（親）が離婚して、学校から娘を父親が引き取ったので父親の相談相手になって欲しい。

- ・朝の見守りをしていたおかげで学校に行きやすくなった。
- ・町内会を通して子供を見守り、児童会のイベントの手伝い、学校が2校から8校に増えたので、民生児童委員さんをお願いして見守ってもらっている。
- ・町内会長・学校長・保育園・PTA会長などが集まって交流を深め、情報交換している。 ※学校との関わりが少ないため情報が得られない。元PTA会長をやっていたので“学校訪問しやすい”。
- ・子育てサロンで小さい時から子供達を見ている。

【事例2】不登校→母親が病気のため看病している。

- ・絵本をもって家庭訪問している（生後2か月の赤ちゃん対象）。「うぶ声の贈り物」

## 第16グループ

○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・地域の情報をいかに集めるか、不登校はそれぞれの地区にあるが

☆学校訪問で情報を出したがる学校もある～個人情報保護の壁、守秘義務があるのを知っているが出たがる→学校に顔出しして信頼関係を醸成することが大切

学校評議員、補導員との交流

民児協の定例会にて実名入りで報告しあう。1人でかかえこまないことが大切。

☆毎年聞く話ですが

旭川市：子供が生まれた2か月、担当民生委員と主任とで絵本プレゼント

子育てサロン・子ども食堂のお知らせ、子育て支援ナビゲーターも紹介して、いつでも相談相手はいますよと伝えられる。

☆朝のあいさつ・声かけ運動→子どもだんだん声出せるようになる。明るくなる→続けることが大切。

## 第17グループ

- ・主任児童委員としての情報の集め方について

現状①・ケース会議をしてもその後について繋がらない。

- ・市の担当者が囑託だったりするのかよく変わって情報が繋がらない。
- ・統廃合に伴って、学校と民生委員との分散会をするようお願いしている。
- ・校長先生によっては理解のある方で、ネットワークを作りやすいときもある。

打破するために⇒出かけてくと情報は集まる。すごく私たちの希望となった。

- ・おたよりをもらい学校に出向く、そのときに何かないですかと何度も聞くと少しずつ教えてくれる。
- ・1人暮らしの高齢者は地域をよく見ているので、独居老人訪問の民生委員

から情報をもらえらる。

- ・児相 OB と市の職員で、要保護児童の協議会があつてネットワークが作られている。
  - ・生徒指導担当の先生との会議を2年に1回ずつ（小中で）もっている。
  - ②・赤ちゃんとの繋がりがもちづらい地区も→ブックトーク（赤ちゃん訪問）、第2子目以降を主任児童委員に任されている→5時間おしゃべりできた方も、泣いた上の子とも遊んであげたり。
  - ・3か月、1才半健診未受診の家庭に子育てサポーターとして訪問要請
  - ③・主任児童委員部会もさまざま
    - ・年に1回講演会のみ
    - ・2か月に1回集まるときに、各地区担当の保健師さんと交流して、主任児童委員同士、保育に関する情報
    - ・検診の時に配ってもらうリーフレットを作っている。
- ※定年制でたくさんネタ・ノウハウをもっている方が外れてしまうことがもったいない。

### 第3分散会（主任児童委員）グループ協議記録概要

司会者 戸村綾子氏（苫小牧市花園地区民児協主任児童委員）  
助言者 多田傳生氏（旭川育児院院長）

#### 第1グループ

- ・各町それぞれ少子化進んでいる中、行政と学校との情報交換が大変。
- ・いじめ・不登校はどこの地域にも少しはある中、主任児童委員としてその家庭に対して関わられる事はどんな事があるか、現状を把握するため学校（転勤の多い）に心を開いてもらうにはと考えた。
- ・月1回学校訪問されている。（中標津町）  
行政に本音をぶつけてみた。「情報がないなら動けない。これなら民生委員いらぬのでは。」→それから見守りの依頼をしてくれるようになった。
- ・適応指導教室～教員退職者、指導員で不登校生徒15名（余市町）
- ・ケース会議（要対協）の結果を知らせてくれない→東川町では福祉課へ聞きに行っている。
- ・主任児童委員になりたての頃は、全く情報をもらえず大変苦勞したが、浜頓別町では担当の民生委員がその家庭と連絡とって、主任へつないでくれて、やりやすくしてくれている。「あとで行ってきてね。」と言ってくれるので助かる。
- ・当て職が多い。コミュニティスクールの関わっている主任もいるし、関わっていない方もいる。
- ・学校訪問は必ず自分の自己紹介の際に「主任児童委員です。」と役職名をくり返して言い、覚えてもらうようにしている。
- ・行政⇄学校⇄主任は連携が大切なので、わからないこと、知りたい情報などは上手く要望していくことも大切。
- ・主任で行事に参加したあとに、礼状を出すようにしたら快く対応してもらえるようになった。（中標津町）

#### 第2グループ

##### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・スクールソーシャルワーカーも兼務しているため情報は入ってくる、繋がっている機関が多い、イベント等への参加、一人では何もできないので繋がりが大切。
- ・スクールソーシャルワーカーと主任2人で、月に1回情報交換会を開いている。家庭訪問も行っている。
- ・不登校の生徒への居場所作り、学校以外のサードスペース
- ・学校へ来れないからどうする～見守り→居場所作りが次のステップ
- ・不登校～本人と会えないことも多い。
- ・学校からの情報が主任児童委員まで伝わってこない。
- ・ケース会議には呼ばれないことも多い。必ず呼ばれる町村もある。
- ・学校は地域へ開かれていないこともある。管理職によって変わってくる。
- ・自分から情報収集に行くことが大切。
- ・顔と名前を覚えてもらうことも大切。
- ・主任児童委員同士の情報交換も大切。

- ・欲しい情報については自ら求めて行動していく。
- ・民生委員ってどんな人というものが現場にはある。
- ・民生委員について知ってもらう。地域の情報も伝えていく。
- ・学校との関係性を良好に保つ～子どものために
- ・お母さんの壁は厚い。
- ・家庭訪問はしていない。あいさつ等にとどめ、徐々に心を開いてもらう。
- ・情報共有～色々な人との関わりを持ち、情報を得ていく。
- ・合併した市町村の場合、人数を考えてほしい。
- ・相談する相手が欲しい。
- ・民生委員独自の活動より、地域や子育て支援室の行事へ参加
- ・児童委員は高齢者支援で手いっぱい。
- ・行事等へ積極的に参加する。
- ・民生委員の方から手伝ってほしい。
- ・赤ちゃん訪問についていく。手伝い羨ましい。
- ・ブックスタート事業羨ましい。
- ・民生委員高齢化している。
- ・何か気になるなど感じられる人が主任児童委員や民生委員になることが望ましい。
- ・主任児童委員から地区担当の民生委員へ情報提供することにより、新たな情報を共有することも多い。民児協全体でも共有を。
- ・学校関係者は人が替わるので、民生委員の存在は大きい。
- ・ケース毎（課題のある家庭への支援）のカルテ作りをしている。
- ・チームワーク～学校から話してくれる。信頼関係が築けている→成功体験があるからあたり前の様に活用してくれる。
- ・情報交換が何より大切である。
- ・CS、地域の方々が構成員
- ・人が嫌いじゃないから続けられる。
- ・成長が見守っていけることがうれしい。
- ・虐待の通報は、警察からが増えている。DV→心理的虐待

### 第3グループ

#### ◎日常の活動

- ・七 飯 町：子育て支援センター（就学前）の支援が厚い。「サンデーパパ」地域の人達とのクリスマス。就学後は支援がみえかくれ。安心、安全の登下校との見守り。不登校の問題⇒学校との連携、年に2回程行政、子供達にかかわる人達、警察等、地域の人々少しずつ話し合うが情報交換にはなるが具体的には前に進まない。
- ・枝 幸 町：小学生 80 人、中学生 40 人、子供の少ない地区、小・中各 1 校⇒まず学校訪問から（去年、今年）主任 1 年生なので平和な地区と思っていたが少なからず問題があった。  
宿題を持って子供等に集まってもらった、夏・冬休み 3 日程、酪農の子に来てほしかったが来てほしい子には会えない
- ・美 瑛 町：1 才の子供達に来てもらって状況を見ている（支援センター）。幼、保育所、小学校・中学校・高校と引き継いでいる。情報交換・年 5 回、安心・安全の為各機関の合同会議、発達障害の家庭に対しては希望が

あれば教室が開かれる。

ケース会議が開かれる。小4、中2、運営協議会メンバー、保育所から学校（小、中、高）までの連携が上手くいっている。

- ・長沼町：子育て支援センター、行政中心、情報は共有  
LD・LHD～早めの対応が大事⇒取り組みがある。以前もあったと思うが今はキメ細かに視察・家庭も見守る。貧困の問題はない。学校訪問は主任をわかってもらうため。学校の行事にも参加。  
登・下校のあいさつ運動を毎日行う。中学生の問題を抱えている。
- ・湧別町：子育て支援は行政がしっかりやっているので手伝いのみ。学校訪問、パトロールはもう10年以上やっている。今年地区に義務教育学校が発足、コミュニティスクール、協議会の運営委員になる。
- ・美瑛町：母子手帳をもらって検診の時、保健師と民生委員も一緒に行き、心配相談がないか顔合わせも。
- ・七飯町：学童保育80名程、共稼ぎ、片親（母子）家庭が多い。母子家庭との連絡がとれなくなるのが一番困る。
- ・枝幸町：祖父母の所に子供を預けて親はいない。祖父が亡くなり、親と連絡がとれず学校から電話⇒ハシ渡しになれる立場
- ・七飯町：月に一回は学校訪問、こちらから情報交換と顔を知ってもらう。節分行事を作ってもらってゲームをしたり「民生委員と遊ぼう」道に立っていて子供たちから声をかける様に、地区、小・中各1校、人数多い。
- ・美瑛町：学校側から参加してほしい。地区によって違うんですね。
- ・湧別町：校長先生によって違うと思う。
- ・七飯町：民生・児童委員は「橋渡し役」だと思う。
- ・美瑛町：発達障害が多いのではないか。ある学校では学校側は違う、その学校の取り組みがしっかりしているから。
- ・長沼町：学校のイメージを民生・児童委員もプラス思考で発信して行く。中心には子供がいる。横の繋がりでもっている情報を提供して連携していく。
- ・七飯町：学校批判が多かったが自分達が学校へ入ってみて、学校の先生は本当に大変なのが良く分かった。地域皆で子供も育てる気持ちが民生・児童委員もやりがいあるのでは。
- ・枝幸町：言いづらい事も言う、それも私達の役目か。

#### 第4グループ

- ①学校とのかかわり（行きやすくなってきた）
  - ・地域（児童委員）年1回（小3、養護、高校）
  - ・学校登校する子の見守り、あいさつ運動（秋春）
  - ・例会の前に子どもの様子を聞く。
  - ・小、中学校の行事に参加
  - ・地域の児童委員とのかかわりを強める必要、子どもの見守り（地域の民生委員とのつながりで）
  - ・昔は学校との関わり少なかったが少しずつ多くなってきた。
  - ・2か月に1回学校訪問（給食をいただく）
  - ・校長が変わると訪問しづらい状態もある、教育委員会の学校への指導が大切。



## ②地域とのつながり連携について

- ・認定子ども園（小学校）本の読みきかせ（本・作文）
- ・郷土祭に参加
- ・健康診断の時に（読みきかせグループ）子ども園
- ・支援センター毎月参加
- ・ボランティア、子育てサロンへの協力  
若いお母さんの集り、託児ボランティア、託児所ボランティアで母親の悩みを聞く。
- ・交通安全教室に参加
- ・下校時に見守りする（地域の危険道路個所の発見、道路標識）。
- ・ゴミを拾いながら見守りする。
- ・生徒指導連絡協議会の場で情報交換する。

## ③主任児童委員の役割とは何か

- ・児童部会を立ち上げ主任児童委員は必ず参加する。
- ・民生委員同士の繋がり大切。
- ・家庭訪問や子どもと直接対応できない。
- ・関係機関との連携が大切であるが、単なる繋げ役でいいのか。

## 第5グループ

### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ・主任児童委員の活動
  - ・定例会議
  - ・5校訪問：幕別町教育の日（毎月）、入学式、運動会、発表会  
学校訪問（年4回）～町村によって異なる。  
参観日に合わせて、給食を共に
  - ・ケース会議：学校からの要請もある（民生委員への協力）～ケース会議が開催され対応を練る場合がある（関係機関）。
- ・児童部会だより発行
- ・読み聞かせ、人形劇を通して子どもとのふれあい図る。
- ・見守り隊（登下校時）道路（交差点）・地域をまわる。
- ・乳児健診等に出席して
- ・主任児童委員の仕事内容のパンフを作成し、町民に理解してもらっている。
- ・悩み～権限がない→専門職への道をつける（繋ぐ）。
- ・保健師・福祉課からお願いされて、家庭に訪問  
学校とのかかわりを強めていき、いろいろと義務されてることが多い。

## 第6グループ

- ◎活動内容 ★お寺と手を組みリアル寺子屋を、不登校の子を集めてフリースクール化した。教育関係からも金銭的支援もあり。キャンプ、釣りも教える。
- ◎活動費について発表し合って、差に驚いた。
- ◎テーマから入るより、それぞれの突出した活動を聞いてからの方が盛り上がると思う。

## ◎テーマに沿わずオールフリー

- ・文科省が進めるコミュニティスクールについて、上手く運営する方法を知りたい。試行錯誤しながら時間をかけて作り上げていくものか。
- ・学校との連携について～音更町ではペースは月 1 回ほど主任児童委員が個人的に相談を受けられる場を学校内に設けた。保健師などを交えてのケース会議を 10 年前ぐらいから増やした。  
校長・教頭は不要、担任、学校指導担当の先生と話すの問題出てくる。
- ・各町の人口と主任の人数
- ・ブロックごとで良いので主任児童委員の研修を設けてほしい。何をしたら良いのかわからない人が多いので主任児童委員の「副会長」を作るべき。部会を作るところから、勉強会・研修会も振興局単位でも、主任児童委員を添えものにしてほしくない。
- ・要保護児童対策
- ・いじめに対しては、人間関係、直接私達が出て踏み込むのも、考えて慎重に入らなくてはならない。傾聴大事である。
- ・未だ個人情報保護法がなんとなく邪魔で、活動に支障をきたす。助けたくても見守れもしない。次に繋げられないので困る時もある。
- ・なり手について

【課題】長く続けられる人はなかなかいない。出来るだけずらして任期を全うするものだが、所によっては出来ていなくて 1 からやるところも有る。主任は特に地域からというわけではないのでより難しいと、名前だけの当て職も多いと感じる。

【策】“主任”は若い人の中から名を上げてもらい依頼する様にしていく予定。

## 第7グループ

- ・せたな町：コミュニティスクールの運営に関わっている。年 3 回、これから学校と関わっていくかも。
- ・斜里町：P 連で活動、高校生の自殺未遂、虐待の調査、学校訪問のやり方
- ・小平町：親が病気・貧困などの場合、虐待や 2 次障害へ連鎖→親の支援が必要。
- ・池田町：2 人、地域に母アル中の家庭あり。子のデイサービスがない。読みきかせで学校と関わっている。どう関わっていったらいいか、小さな町だからあまり活動がない。保育士の確保が難しい。
- ・秩父別町：2 人、1 校
- ・スマホについて、CAP の取り組み、子どもの居場所、子ども食堂、放課後子ども支援、学童、放課後デイサービス、ゲーム、発達障害についてなどいろんな意見が出た。
- ・新しい方々もいたので、どんな活動をしているか、どのようにしたらいいかなどを話した。  
まず、主任として慣れていただくためにも情報交換した。  
小さな町だし特に何もしていない→他の町の取り組みを聞いて驚いた。

## 第8グループ

- ・不登校、体育祭など行事には参加するが、平日は学校に来ていない。町外から両

親がホテルなどに働きにきたが、子どもが1人である時間が多いのでそのうち不登校になり、中学生くらいになると両親が仕事を辞めて町を出ていく。ネグレクトの家庭も不登校。学校の情報提供は校長先生によって違う。

- ・主任児童委員は行政への橋渡し役
- ・主任児童委員の名刺を事務局で作ってもらっている町があるので、作ってもらっていない町は事務局に伝えてみる。
- ・保育園児は親の顔色をみていい子になっている。小学生も顔色をう伺っていて学童保育にいったときにストレスのはげぐちをしている。  
※うちの子にかぎってと思っている親がいる。
- ・貧困の現状は見えてこない。
- ・学校訪問を北竜町では2か月に1度行っている。
- ・不登校だった子どもが4人もいた学年では、オープンな校長先生がいて、中3で復帰できた話など、外に連れ出すなどいろいろと行動をしていたそうだ。

## 第9グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために

- ・比布町：学校訪問、不登校の人数が多い→校長先生が教育長に相談→主任児童委員に連絡が来た。以来経験上（子どもが不登校）から母に寄り添い。不登校→学校へ行くことが解決ではない。行けない理由、良い子の息切れ症候群、よい親子関係など。
- ・小清水町：地域のグリーゼン、いじめの情報を名前で知らせてくれる。守秘義務（長期休み、お祭り等）、2か月に1回いじめ会議、校長・教頭・学校（いじめ担当）、教育委員会、主任児童委員→近所の人に話を聞く、教育委員会が音頭とっている、校長先生
- ・奈井江町：夏休み中、町内巡回、22人を4グループに分けて4日間、15:00~1時間くらい  
多動、忙しい。
- ・当麻町：毎月のように学校へ行く、特にどこを通さなくても行けるルートがある、隣町で勉強会、若い母親から町長に意見を言える。チラシをつくった。
- ・愛別町：子育てサロンを立ち上げて2年、親子で3年目（中心が主任児童委員）
- ・小清水町：支援センターに入っている。1か月に1回乳幼児健診に来ていない（地域の民生委員）→子供をあやしながら母親と話したり、情報近況を聞く。
- ・奈井江町：支援センターの1か月に1回行事  
こども園～民生委員と子どもとポップコーンを作る。園庭での収穫祭（3年）
- ・学校の行事、スクールカレンダー、入学式・卒業式・運動会等に顔を出すようにしている→後に案内状が来るようになった。
- ・特別支援委員会（新1年生）に参加している。前は匿名→実名にしてもらう。

## 第10グループ

○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために

- いじめアンケートについて  
各町村でいじめアンケートはとっているが民生委員に情報がない町村がある。  
学校教育との会合をもち、現状報告と共有している町村もある。  
ネグレクトなど福祉課と連携、学校から止められると見ているしかない。  
町村によって学校とのカベがある。
- 小清水町：学校がオープン、福祉課、学校とも情報を共有している（参観日・運動会・行事に招かれる）。
- 不登校の児童、家庭1親の関わりによって変わる。学校に行ける子・行けない子  
町で会うと声かけをしている。
- 主任児童委員としてどこまで関わっていいのか、学校との交流、コミュニティスクール

## 第4 分散会（児童委員・主任児童委員合同）グループ協議記録概要

司会者 池 島 深 雪 氏（岩見沢市第7方面民児協児童委員）  
助言者 阿 部 康 子 氏（向陽学院院長）

### 第1グループ

#### ◎各担当地区の実践状況の報告

- ・岩見沢市：町内会活動も実践→夏まつり、餅つきやクリスマス、3つの町内会で育成会を組織、59人（小中生）  
担当区域で公園2か所遊ぶ子供達が非常に少なくなった。  
イベントには参加者は多いが計画時は少ない人数で対応  
アンケートにも反応が非常に弱い。  
各小学校に野球チームがある→指導者がいなくて苦慮している  
子供みこしの廃止（大人がいない）
- ・苫小牧市：児相がなくて困っている。相談は多く児相の誘致進まない。署名活動をしているがなかなか進まない。  
民児協は高齢者主体の活動となっている。  
町内会の子供まつり～中学生の手伝いも増えている。子供が集まってくる。中学校活動への参加は少ないが、会長の要請で中学生の参加も活性化した。
- ・登別市：中学生の参加にお駄賃を渡している→参加が多い。
- ・北見市：児童が少ない、お祭り（児童館、小学校の共催）→見守りの依頼があるので手伝い。  
保護者の参加、バザー（食べもの）  
冬は中学生の参加（OB会）昔遊びをする～世代間交流  
赤ちゃん活動、保健所から連絡あり訪問する→旭川市の「うぶ声の贈りもの」を紹介
- ・苫小牧市：子供の情報が提供されないため対応ができない。
- ・登別市：ケース会議の紹介・案内（担当者によって大きな差がある）
- ・岩見沢市：子供の情報提供はない。了解者は市の公報に掲載となる。
- ・登別市：保健師さんとの交流会では児童数への希望はなかった→「子育てガイドブック」を紹介、主任児童委員としての仕事ができている。
- ・岩見沢市：児童館、就園前（3歳前）の遊びの場を提供（月2回）、栗沢町認定子供園で提供、「ひなたっ子」子育て支援施設多くの子供が利用している→児童委員年2回ボランティアの手伝い。
- ・登別市：母親の息抜きになっているところもある。
- ・岩見沢市：子育て支援センター、参加しない保護者が課題となる。
- ・深川市：年1回小学校（午前中・給食を食べてくる）・中学校を訪問、保育園も訪問している。定期的な訪問をしている。
- ・旭川市：「おやこの会」の行事の紹介、「うぶ声の贈りもの」「子育てガイドブック」の紹介、小学校総合学習への支援（個人的なつながり）
- ・苫小牧市：公報の配付（全部配付か加入者のみ）行き届いていない世帯もある。
- ・岩見沢市：町内会でラジオ体操を実施、200名位が参加、公報の配付、手数料が入金ある。

- ・旭川市：町内会の廃止の問題～情報の欠落
- ・岩見沢市：敬老会、敬老会の対象が敬老会を実施、イベントを実施、民生委員は招待される。
- ・登別市：民生委員だまされて了解した。新しい人の繋がりができた事で納得できるのではないか。
- ・学校との繋がり、子育て支援施設の利用、赤ちゃん訪問、情報の共有ができていない～役割を求められていない。町内会等のイベント開催、苦慮しているが子供の参加繋がっている。

## 第2グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・地域によって子どもの情報が入らない。
- ・親子広場を作り、地域の子どもと関わっている。
- ・学校からの情報は地域によって格差がある（学校訪問はしている）。
- ・昔も今も子どもは可愛いが、公園で遊んでいる子は少ない（草がボーボーである）。
- ・見守りは朝夕に声かけをしている所が多い。
- ・上士幌町は、他の地域と違ってふるさと納税のおかげで新しい人がどんどん入ってきている。しかし情報が主任児童委員等には入ってこない。0歳児から受け入れの子ども園もある。140名程と考えていたが現在160名いる。発達支援の施設もできた。
- ・町内会と民生委員の関わりは、ある所と無い所があった。関わりがあった方が情報が入った。

※皆さん一生懸命子どもと関わろうとしているが、情報がなく迷っていると感じた。

## 第3グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

#### ◎地域の現状、民生委員と子供達との係り

- ・登別市：登下校の見守り活動、青色を灯して車での巡回パトロールは数年続いている。
- ・北見市：90世帯を受け持つが生保世帯0である。
- ・旭川市：地区の中での活動、26人の民生委員、子育てサロンを月一回、当番制にして民生委員も手伝う。学校行事にも参加、子供が生まれた家に絵本を送ることにつながりとなる（児童委員が届ける）。
- ・栗山町：40名の活動（内主任児童委員2名）民生委員の高齢化、子供に関する問題の提供（定例会）子育てサロン実施されている。幼児は子育て支援センター（警察の隣）
- ・苫小牧市：児童虐待が多い地域で児童相談所がなく、今承認される様署名活動をしている。主任児童委員部会に参加する。子供食堂の活動。※行政、地域、団体、ボランティア（有料ボランティア）について疑問に思う。
- ・岩見沢市：ひなたっ子・児童館～子育て支援センターにて毎日開設

※今日の講演会を聞いての感想（良かった、特に文字の大きさは参加者に配慮されている）

子育てに関して結果を問うのではなく原因を知る。

P23 惻隱の情（孟子）～助けてあげるのではなく困っている人がいればさりげなくできる人でありたい。

子ども食堂の活動についての通知 P54～（関係資料）を読んだ。

## 第4グループ

### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

◎地域により子育てサロンなどを行っているところがある。そこに児童委員も関わっているが…

- ・子育てサロンについて北見市、親子で集まれる場、月に何度か。苫小牧市として各児童館で親子の集まり、行事に民生委員としては関わりはない、民生委員として子どもと関わるのが少ない主任児童委員は関わっていると思う。旭川市、1年で10回、月第1木曜日7～8人集まり、主任児童委員が計画し高齢者も含めて行事を行う。北広島市、小1の子に昔遊びなどを教える、未来塾として教える、それぞれの地域により特色があり子育てに関わることはそれぞれ違う。岩見沢市は子ども課があり、であえ～るで毎日3歳児利用できる、子どもの広場などに民生・主任児童委員が関わっている、運営は主任児童委員している行事もある、3歳児以下が少なくなっている、保育園入所時の年齢層が低くなっている。北広島市、町内で民生委員が行事をやり、子どもが集まる時にお手伝いをする。町内行事で子どもが関わることに民生委員がお手伝いすることが多い。

◎それぞれの町の民生委員が活動するための台帳についての情報交換

◎発達障害について情報交換

◎学校との関わりについて、民生委員、児童委員、主任児童委員はどのようにしているか、それぞれの町で…

- ・ケース会議に参加する。
- ・卒業式・入学式など行事に参加する。
- ・年に1度、学校訪問する。
- ・現場の先生から話を聞きたいがなかなか難しい。
- ・民生委員児童委員と学校区がだぶって関わりが難しい。

◎不登校について

- ・岩見沢市は不登校対策を市で行っているのでも委員が関わることはあまりない。不登校の行く場が増えた。

◎高齢者との関わりで困ることは

- ・除雪が大変
- ・孤立した高齢者について
- ・ゴミ屋敷のお宅について

◎子どもの貧困について

- ・子ども食堂は貧困の子どもの役に立っているか
- ・それぞれの町の取り組みについて
- ・児童館での行事があっても参加できているか？参加できない子どもたちをどうしたらいいのか

◎子どもへの虐待について

- ・児童委員は介入が難しい、見守りしかできない。
- ・子から親への虐待もある。
- ・病院との連携、情報を伝えてくれる病院とそうではない病院がある。

- ・親の年金、5080 問題もある。

## 第5グループ

- ・定例会で小・中学校の先生に来てもらい学校行事など 5 分程度共有してもらっている。
- ・放課後クラブを町で面倒みている。中には発達障害、非行ぎみの人もいる。
- ・私設幼稚園を地域でお金出し合い運営→転勤や貧困で保育所・幼稚園に行っていない子供・母親への支援もしている。
- ・不登校の小・中学生を集めて、民生委員が主導で、畑をやったり学童のようなものをつくっている。
- ・各学校を回り生徒と一緒に昼食をとっている。家庭の事もわかる。
- ・守秘義務があり情報が薄く動けない、立ち入りすぎはダメ、どこまで必要なのか。
- ・個人情報も共有されてケース会議も実施→見守りに繋げている。
- ・情報公開は出来ている、ケース会議も実施
- ・うぶ声のおくりもの「本」を市から赤ちゃんの産まれた家庭に届けている。

## 第6グループ

### ○テーマ1「子育て中のお母さんの孤立を防ぐために」

- ①親類・近所とのつき合いが希薄な中で、子育て経験の少ない母親、子育てに不安を感じている母親
- ②保育園・幼稚園に入る前の母親同士の接触なさ
- ③人との交際が不得手な性格、町会活動、子供会活動等へ誘うが続かない親子
- ④転勤等で地元で馴染みのない家庭等々孤立し易い親子に対する児童委員としてどのように活動できるか
  - ・道中での気軽な声かけ（大丈夫大丈夫というような自信をつけさせる言葉掛）
  - ・発達障害等持っている人にも個を理解して（こういう人達）夫婦で継続的な声掛けや児童委員として得た情報、様々な事業（手話講習会・工作教室・料理教室・おもちゃライブラリーなど）への勧誘をこまめに行っている。
  - ・異年齢、異世代で地域食堂の開催（月1回、人が人を誘ってくる）
  - ・地域毎の児童館親子ひろばと市全体を対象とした親子ひろばの運営協力をし、その中では育児心配相談や栄養相談、小児科医への相談などもある。
  - ・ケース検討会議の持ち方にそこそこの特色もあるのと、民生児童委員のなり手不足でできるだけ、業務を減らす方向で行政が考えているようで情報が伝わらない。

### ○テーマ5「グループで協議、情報交換したい事項」

- ◎発達障害について
  - ・“一寸おかしな子（人）”とくくられていたのが、近年細分化され、それぞれの障害に応じた名前もつけられ、症状も違うため対応の難しさを感じる。
  - ・2か月に1回児童部会で中学校の支援級と交流、スムーズに進めるために学校の先生からレクチャーを受けている。

## 第7グループ



### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・稚内市：母子家庭、生活保護、4年生母親と登校、自宅ではゲームにひたっている生活、生活の乱れ、入浴せず、(個人的な依頼)学校の先生より家庭訪問の依頼を受けているが、自分の年代と違い家庭訪問するのにためらいがある。

地区協議の時に相談話をしてみれば、先生より個人情報を広めて欲しくない、しかし今後依頼者の先生も交え(普段母親とは職場等で顔見知りでもある)とりあえずじっくり話を聴く、先入観をもたずに相手のことを考えて話をきいていきたい。接点を多くもつ、親が問題を感じていない→虐待につながる、長い目をみて、見守っていく。

- ・苫小牧市：母親(母子家庭)、父親覚醒剤服役中、肝炎感染、生活保護受給中、子ども2歳、保育園には行っていない、ネグレクト気味、市役所、ケースワーカーより依頼があり一緒に訪問するが、以後訪問することにより母親を追い詰めることになるので見守りを続けている。

- ・釧路市：458名、42名、地域に入り込めない。

情報を得る手段～学校、児童館よりの情報、学校訪問を定期的に行っている。校長、民生委員等より情報交換行なう。次の段階学校側より、問題のある生徒の相談を受ける。学校から民生委員にお金が支払えない生徒、経済状況について情報を得られないか、民生委員として活動するにあたり情報が得られるのは大切である。

- ・岩見沢市：学校、児童館、町内からの交流状況を話す。交流の場が様々であり情報を得られる。

- ・北広島市：小中あいさつ運動、学校訪問(実際には学校情報出したがらない)、授業参観も行う(小3つ、中1つ、30数人を分けてから)。町内会ふるさとづくり、盆踊りもちつき等、夜の見守り～最近見かけなくなった一部活等の影響か、親の送迎つき、保育所訪問

## 第8グループ

### ○テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」

- ・岩見沢市：なかなか情報なしの地区とある地区、地区によって違いあり、高齢化の地区とニュータウンでは子ども数の違い。

先日の例会で親子ゲンカ、外で大声、近所迷惑(子が障がい)まず警察へそして市へそこから施設へ(親子を離れた方が)そして安心したケースあり。

習字や手芸、得意な地域の方々が学校へ交流。

- ・北広島市：いじめの情報はなかなか得られず、しかし3年前より学校へボランティア、学習サポート、小学校がPM14:30-15:30の1時間塾へ行けない子へサポート、5教科英語も、1学年10数人を20数人のサポート隊で支援、とても楽しい。アウトレットの地区は人口多く6万人くらい変わらない。いいジャージを着てる、いいものを持つてる…そこから格差、学習格差、そこをサポートしたい。

- ・江別市：地区の中学校で「いじめをなくそう運動」している。各学校の取り組みも公報などで全てわかる。ただ学校と上手くいっていない感あり、校長によって違いがある。ひきこもりの障がいの子の家へ主任児童委

員が行くと、そこの祖父が元校長「うちはいいですから」となかなか難しい。

- ・稚内市：各地区、定例会へ校長を招いてお話を聞く、心の相談室の先生がきっかけでぜひ話を聞こうと、校長への情報提供で失敗も…校長が全員の前で言った、近所の砂場で朝早くにきてブランコに乗っていた子が放尿、それを見ていた委員の妻が校長から注意を受けた児童より逆にいやがられ先生からも心ない言葉…残念なケースである。  
毎月、毎回、頻繁に先生を招いて交流を、民協のイベントへも招いて楽しく交流を。
- ・当麻町：幼稚園 1、保育所 1、小学校 2、中学校 1、全ての学校へ訪問、民生委員 18 名＋主任 2 名、主任 2 名は全ての学校の行事へ参加、各学校への情報提供→逆にいただく OK、全てうまくいっている。小さい町なので、いじめも不登校もある。情報をもらえる。地域の民生委員の協力大きい。
- ・北見市：いじめの情報はない。不登校はあり。集団が×、少数は OK、小学・中学・民生委員から学校へ出向く、3 年かかって今情報交換できている。校長がかわると今まで知らなかった事がたくさん出てくる。

(まとめ)

- ・地域で問題の有無がちがう、校長によって違う。
- ・北広島市：実態が見えない中、私たち民生委員、児童委員、主任児童委員、自分たちの力はいかななものか、どう見られているのか、なにをしていけばよいのか、それでも地域に学校に関わって地域の子どもを見守っていきたい。

## 第9グループ

### ○テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」

- ・北広島市：あいさつ運動～朝の登校時にあいさつがけ、第3月・火・水  
子供サロン、昼食、夏休み冬休み各1回、主任児童委員  
米1合だけ持って来てもらう、児童委員  
食材は用意する（農家さんからの寄付など）、町内会館 30 人、15 人小学生対象、焼肉、盆おどり、育成会の七夕（会費）など、一角を借りて行う
- ・岩見沢市：第2方面、児童館…もちつき、ボランティア、クリスマス、3歳未満、親子広場、小学校、町内会、民生委員、他のボランティア～なり手がいないため、かけもち  
小学校児童館おまつりの手伝い
- ・深川市：赤ちゃんの面倒を見るため、児童センターにお手伝い（他の小さなお子さんを保育士有り）  
主任・児童委員～教育施設を見学、状況を確認、その後主任委員で情報交換、支援学級との交流（ゲートボール、調理実習）年4回（主任・児童委員）  
新聞を作り、70歳以上の方に3回入れる（安否確認）  
すきやき隊～子供のお世話役の活動

## 第10グループ

- テーマ4「いじめ、不登校、非行問題に関する情報の把握や、学校との交流を深めるために」
- ・江別市：子育てサロン運営、障がい者授産施設訪問、小学校主催の評議委員会参加、学校からの情報を得るのは困難（不登校、いじめなど）市の福祉課から情報、依頼で見守りあり
  - ・豊富町：主任児童委員、学校行事へ参加、保育所～高校、入卒・学芸会・運動会5校程  
子ども食堂の立ち上げ、協力依頼あり  
学校訪問、転校生の家庭環境、情報提供あり、見守り要請  
夏期休暇時、警察と連携して見守り、見回り活動実施
  - ・深川市：学校の評議員も兼務、地域の目が届きやすい環境、  
学校からの情報ない、学校は連携を求めているのでは。

## 第11グループ

- テーマ3「地域の状況を知り、子どもとの交流や地域団体との連携を進めるために」
- ・北見市：広域である。子供会がある。学校よりおたよりが送られてくるので子供の様子が知ることできる。児童委員さんに主任さんより情報を例会で細かく報告ある。
  - ・岩見沢市：子どもたちの様子は学校だよりで知るが情報が遅い。定例月に1回、学校と民生委員と話す場をもっている。
  - ・留萌市：月～土までの小学校の下校時のパトロールをしている（定例会月に一度）。
  - ・深川市：子供の数減少、学校だよりをもらう、すきやき隊もあり、危険なことなどがあるとかけこみなさいなどと取り組みをしている。学童などもある。
  - ・登別市：町内会の回覧に学校だよりを入れてくれる。放課後の赤ペン先生をしている（小学校の都合で不定期）。
  - ・北広島市：町5割老人で青年部がなくなった。ラジオ体操などもしていたが人口減少とともになくなった。卒業式・入学式などにも参加、給食の残すところと残さないところがあり。給食センターを見に行ったが、原因は先生にあるということになった。
  - ・豊富町：学校だよりは回覧板、民協の定例会に毎月、学校の校長先生、警察、保健師を招いて勉強会をしている。学校行事などに参加している。学校訪問などをして子供の様子を聞いてくる。地域の行事に参加して様子を見る。
  - ・子育てしている家族は町内会に入っていない。いろいろ連絡することもあるのでまずは町内会に入してほしい。
  - ・児童委員は子供たちの放課後を把握したい。
  - ・活動の中でやはり個人情報に邪魔して活動しにくい。
  - ・安心キットを配布している。
  - ・地域の行事等に参加して様子を見てくる。
  - ・運動会などもピストルの音がいやだということで笛になる。
  - ・風情がなくなってきた社会・時代の変化となげく、反面それでは何の解決にもな

らないと頑張っている民生委員さんがいる。

- ・足と顔で動いて活動していくしかないのか。
- ・子供の貧困が年々増えている。できるところから支援していこうという結果になる。
- ・子ども食堂を週に 1 回はしてやりたい。どこを巻き込んだらいいか、民生委員も高齢化しているし、保健推進委員会や女性部さんを誘ってやる、若いお母さんたちとの交流にもなる。

◎全体的まとめ

- ・民協定例会は 1 か月、学校だよりで子供の様子を知る。安全隊のメンバー、すきやき隊メンバーなどにも加入している。登下校時の見守り、パトロール、学校行事にも参加したり、学校などと民生委員が話し合いの場を設けている。
- ・活動の中で情報が学校・役場より出てこないので活動しにくい。
- ・風情がなくなってきた、社会の中で、運動会でピストルの音が笛に変わり、子供盆踊りがイヤホンをして踊り、見ている者には音が消えていない、おかしい風景、なげく反面、やる気いっぱい委員さんばかり、これじゃだめだ、なんとかしなければ…どうしたらいい、足で歩き、顔を見せて、他と連携して活動していくしかないということになった。
- ・子どもの貧困が年々増えている。現金支給でない形が望ましい～子供に使われていない。
- ・子供食堂を週 1 回はしてやりたい。

※意欲的な委員ばかりの 11 グループだった。